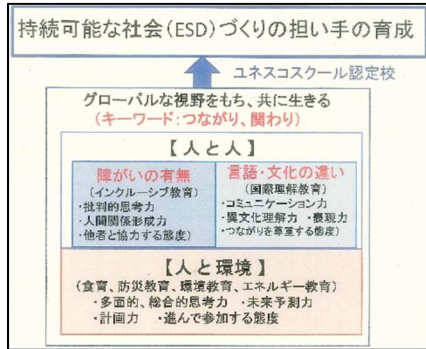




「グローバルマインド」育成のための連携実践

キーワード：小中一貫教育 資質・能力の明確化 日常的な繋がり



北海道教育大学(本学)では、第3期中期目標として、北海道の公立学校教員の授業力向上に寄与することを目指して、4地域の附属学校(旭川・釧路・函館・札幌)それぞれにおいて、小中一貫事業に取り組んでいる。札幌地区では、グローバルマインド育成を目指した小中一貫教育課程とし、食育・環境・防災を窓とした「自然」との関わり、教科指導やインクルーシブ教育を窓とした「人」との関わり…その中で思考力やコミュニケーション力といった、他者と共に生きるための態度や技能の育成を図る実践を重ねている。

①「校舎」も「教員」も「内容」も繋がって!

札幌地区の3校種の校舎は同敷地内にあるだけでなく廊下で全て繋がっている。その構造的な利点を生かし、理論先行でなく「できることをどんどん繋げていこう」という共通理解で実践を積み重ねている。

一つは、小中の通常学級の教職員が一堂に会して行う合同研究部会である。各校の研究テーマの共通理解、それぞれの研究大会提案授業の教科ごとの検討、日常的な実践の交流(小中の教員の交換授業など)を可能な限り行うようにしている。また、今年度後期からは、小・中・特別支援学級の「共通研究テーマ」を設定した上での研究・実践を進めるための取組を始めている。もう一つは、防災訓練などの取組を合同で実施していること

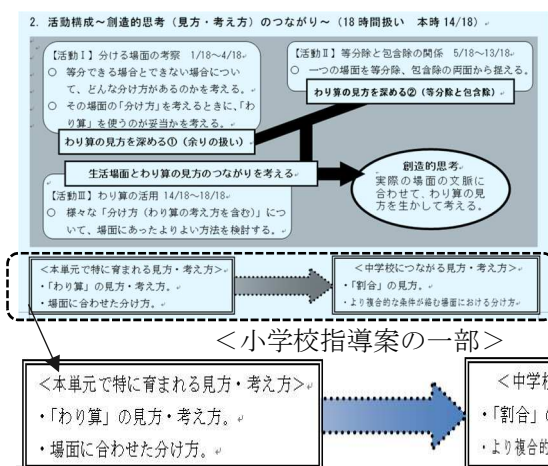


である。担当者が事前に様々な状況・場面を想定して計画を立て、訓練のほとんどを合同で行っている。計画の中では、発達段階に応じた想定の違いを工夫し、小学生が中学生の複雑な訓練を目の当たりにすることで、上を真似る、下に範を示すという教育効果も意識している。このような取組の積み重ねから、①9年間を見通した子どもの成長の共通理解②日常的な小中一貫の取組の在り方を具現化し、「附属だからできる」ではない、「まずやってみる!」型の連携教育の提案を行っていく。

②内容とともに「育てたい力」も繋げて

上記でも述べたがより良い小中一貫の在り方を、日常的で具体的であることと捉えている。そこで、今年度から両校指導案に、「中学校につながる力・小学校で育まれる資質・能力」を位置付けて実践を行っている。

内容の羅列だけになってしまわないように、9年間で子どもたちに身に付けさせたい力は何なのか、どんな力に発展していくのか、どの力と結び付くのかを日常の指導でも位置付ける。授業で育まれる力、授業において発揮される力を小中学校それぞれで共通理解し具体的な実践を行うことで、「附属札幌校9年間で育むべき資質・能力」を明確にした具体的な連携教育を狙うのである。



附属札幌の小中連携教育で、

「繋がり」を日常、具体で実践!